

## 2017年の出版市場発表

### 紙+電子で4.2%減の1兆5,916億円、紙は6.9%減、電子は16.0%増

出版業界の調査研究機関である（公社）全国出版協会・出版科学研究所（所在地：東京都新宿区 理事長：上瀧博正）は2018年1月25日、『出版月報』1月号にて2017年（1～12月期累計）の出版市場の統計を発表しました。紙と電子を合わせた市場規模（推定販売金額）は前年比4.2%減の1兆5,916億円となりました。

なお、本レポートの詳細は、『出版月報』2018年1月号（1月25日発行、頒価2,160円）に掲載しています。レポートの要旨は以下の通りです。

### ■紙市場は6.9%減の1兆3,701億円 書籍は3.0%減、雑誌は10.8%減

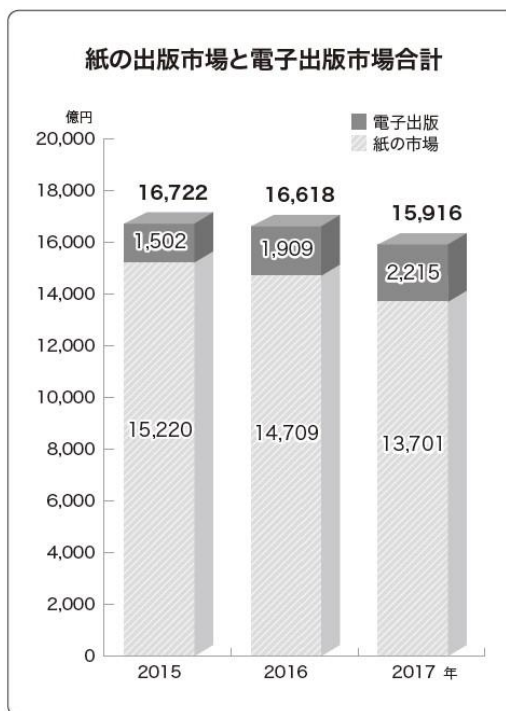
2017年の紙の出版物（書籍・雑誌合計）の推定販売金額は前年比6.9%減の1兆3,701億円で13年連続のマイナスとなりました。

内訳は書籍が同3.0%減の7,152億円、雑誌は同10.8%減の6,548億円。書籍は全体では伸び悩みましたが、文芸書や学参、教養新書などは前年を上回る売れ行きで、児童書も前年並みをキープ。『漫画 君たちはどう生きるか』（マガジンハウス）、『九十歳。何がめでたい』（小学館）、『うんこ漢字ドリル』シリーズ（文響社）など話題書も多数ありました。

雑誌は初の二桁減で、内訳は月刊誌（ムック、コミックス含む）が同11.1%減、週刊誌が同9.2%減となりました。定期誌が約9%減、ムックが約10%減と落ち込んだほか、コミックス単行本が約13%減と大幅に減少しました。

定期誌はほとんどのジャンルがマイナスで、グッズ付録付き女性誌やアイドル・タレントの登場号など単号で売れる傾向が強まっています。コスメグッズ付録をつける『MAQUIA』（集英社）や『美的』（小学館）などが好売れ行きのほか、グッズ付録をつけない雑誌でも『GISELe』（主婦の友社）や『LDK』（晋遊舎）などは好調でした。

コミックスは人気作品の完結や映像化作品の不振、新規ヒット不足などから低迷、電子コミックへの移行も進んでいる模様です。映像化作品では『僕のヒーローアカデミア』（集英社）が年間を通して既刊がよく売れました。書店店頭ではWebアプリ発で単行本化された作品を集めた棚を設けるなど電子から紙へ誘導する動きも広がっています。



**■電子は 16.0%増の 2,215 億円、コミック 17.2%増、書籍 12.4%増、雑誌 12.0%増**

2017 年の電子出版市場は前年比 16.0%増の 2,215 億円。内訳は電子コミックが同 17.2%増の 1,711 億円、電子書籍（文字もの）が同 12.4%増の 290 億円、電子雑誌が同 12.0%増の 214 億円となりました。

電子コミックは続伸していますが伸び率は縮小。値引きキャンペーンや無料試し読みなどを各社がこぞって行っているため飽和状態となりつつあります。また違法海賊版サイトの問題が表出しました。

電子書籍は点数の増加と比例して販売金額は上昇。紙書籍のベストセラーが電子版でも売れる傾向にあります。

電子雑誌は NTT ドコモの定額制雑誌読み放題サービス「d マガジン」の会員数減少に伴い伸び率は鈍化しました。

※電子出版市場規模は、読者が支払った金額を推計したもの。雑誌には定額制読み放題サービスを含む。学術ジャーナル、広告収入は含まない。

**●本件に関するお問い合わせ**

公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所 担当：久保

〒162-0813 新宿区東五軒町 6-21 TEL 03-3269-1379 FAX 03-3266-1855

<http://www.ajpea.or.jp>